

令和2年7月22日

小野市議会議長 小林 千津子 様

総務文教常任委員会
委員長 平田 真実

総務文教常任委員会所管事務調査報告書

6月定例会において、小野市議会会議規則第98条第1項の規定により、申し出をしておりました閉会中の所管事務調査を、下記のとおり実施いたしましたので、同会議規則第103条の規定に基づき調査の報告をします。

記

《所管事務調査》

- 1 開催日時 令和2年7月13日（月）午前10時00分～午前11時44分
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席議員の氏名 平田真実委員長 村本洋子副委員長
松永美由紀委員 河島 泉委員
喜始真吾委員 前田光教委員
藤原 章委員 小林千津子委員
- 4 欠席議員の氏名 な し
- 5 出席した理事者及び担当職員の名
〈教育委員会〉
藤原正伸教育指導部長、藤井潤学校教育課主幹
松本英人教育総務課長、井上雅規スポーツ振興課長
- 6 その他の出席者 高坂純子議員
- 7 所管事務調査事項
(1) 再開後の学校運営について

【心身の把握】

- ・学校再開時のアンケート
- ・これまでから行っている年5回の生活アンケート（2か月に1回程度のペース）
- ・日記や生活の記録
- ・観察
- ・連絡帳や保護者からの情報

⇒生活リズムの崩れや行き渋りの増加も見受けられるが、早期発見し、保護者や養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど関係機関と連携し、きめ細やかに早期対応していく。

【発熱等の対応】

校内で感染者が出た場合、学級閉鎖・当該校休校等の措置を保健所とも連携し、決定・対応していくが、可能な限り学校の教育活動を継続する。一人一人の健康状態や既往症、家族の状況など、様々な要因があるため、「いのち」の重さを感じ、互いを尊重しながら、学校の教育活動停止のリスクを踏まえ、「with コロナ」の在り方を模索していく必要がある。

【熱中症対策】

- ・ネックタオル、ネッククーラーの利用
- ・登下校の荷物の軽減
- ・スポーツドリンクの持参
- ・体操服での登下校、体育の時間等の帽子着用
- ・下校バス（全14台）の導入と下校時刻の繰り上げ
- ・エアコン（28℃を目安に連続運転）、スポットクーラー、大型扇風機の活用
- ・製氷機、経口補水液の準備

【学習支援と教職員の負担軽減】

カリキュラムは再編成しており、概ね8月下旬から9月上旬にかけて通常のカリキュラムに戻る予定である。

- ・加配教員の時間増及び増員
- ・学びサポートスタッフの増員
- ・スクールサポートスタッフの増員

【GIGAスクールプロジェクト】

平成20年より小野市型ICT教育による学力向上施策に取り組んでいる。脳科学理論に基づき、情報活用能力の向上やリテラシー育成を重視し、必要以上にITに頼りすぎない「小野市型」のGIGAスクールプロジェクトを推進していく。

「読み・書き・計算」＋情報活用能力

《所 感》

新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が行われ、あらゆる学校で長期休業を余儀なくされるという未曾有の事態を経て、現在の子どもたちの様子はどうか、また学校の取り組みについて詳しく説明を受けた。

6月1日の出席率は98.4%であり、学校再開を待ち侘びていた多くの子どもたちの様子を感じ取ることができた。しかし、現在も新型コロナウイルス感染症が蔓延しているため、学校における新たな生活様式を取り入れながら、第2波、第3波にも備えた長期的な衛生管理、また、児童生徒のメンタルヘルス対応、熱中症対策が重要となると考える。現在は、座学だけでなく少しずつ行事も再開し、子どもたちも新たな学校生活に慣れてきているが、学校再開当初は情緒が不安定になり、行き渋りの増加も見受けられたとのことである。大きな問題には発展していないが、注視していくとともに、関係機関とも連携し、早期発見・早期対応を行っていくとの説明を受けた。子どもたちの心身の状況把握やストレスケアが非常に重要であると考え、引き続ききめ細やかな対応を切望する。夏休みの日程短縮もあり、熱中症対策も必須であるが、感染症対策との両立を日々模索し、予定通り各学校で十分な対策を講じられたい。

委員からは、児童生徒の心身の把握や熱中症対策、また教職員の負担軽減などについての質問や意見が出された。GIGAスクールプロジェクトについては、情報活用能力やネットリテラシーの育成を図るためにも、今後、滞りなく進捗させる必要がある。子どもたちの学びを保障できる環境を着実に整え、脳科学理論に基づくこれまでのICT教育の実践を生かした「小野市型」GIGAスクールプロジェクトの推進を期待する。合わせて、ICT活用における児童生徒の健康面への配慮について、家庭教育の指導を含め強化されたい。